

OSP - 10835 9
OSP - 15570 0
PC - 8338

整理番号: 発送番号:041960 発送日:平成16年 2月10日 1

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2000-610671
起案日	平成16年 2月 3日
特許庁審査官	川端 康之 9156 4S00
特許出願人代理人	志賀 正武(外 1名) 様
適用条文	第29条第1項、第29条第2項、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1) この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第29条第1項第3号に該当し、特許を受けることができない。

2) この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

3) この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

<理由1, 2について>

- ・請求項 1-8
- ・引用例 1 特開昭63-203844号公報
2 特表平6-501654号公報
- ・備考

引用例1の「射出時の樹脂の流れを助ける流路」(請求項1)、引用例2のスパーサー層は共に、本願の「液状樹脂の移動を妨げない程度に間隙を有する層」に相当するものである。

<理由3について>

請求項1と4に共通する事項である「強化繊維からなる補強体が積層構造を形成している繊維強化複合材料用プリフォーム」は引用例1, 2にあるように公知である。そして、請求項1の「層間に熱可塑性樹脂からなり液状樹脂の移動を妨げない程度に間隙を有する層が存在する」ことと、請求項4の「補強体の表面に熱可塑性樹脂糸条が略平行に貼付けまたは織込まれている」こととは全く異なる構成であるから、請求項1に係る発明と請求項4に係る発明の主要部が同一であるとはいえない。よって、請求項1に係る発明と請求項4に係る発明とは特許法第37条第2号の関係を満たすものではない。

また、請求項4の「補強体の表面に熱可塑性樹脂糸条が略平行に貼付けまたは織込まれている」との特定事項のみでは液状樹脂の移動を妨げないという課題を解決しようとするものであるとは必ずしもいえないから、請求項1に係る発明と請求項4に係る発明との解決しようとする課題が同一であるとはいえない。よって、両者は特許法第37条第1号の関係を満たすものでもない。

さらに、発明のカテゴリーからみて請求項1に係る発明と請求項4に係る発明とは特許法第37条第3-5号の関係を満たすものでもない。

これは請求項4を引用する請求項5、請求項6-8のうち請求項4を引用する部分についても同様である。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1-3, 5-8以外の請求項に係る発明については新規性、進歩性等の要件についての審査を完全には行っていない。

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC第7版 B32B1/00-35/00
- ・先行技術文献 なし

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。
(この拒絶理由通知の内容に関してお問い合わせがある場合には、下記までご連絡下さい。)

TEL 03-3501-0639

FAX 03-3501-0698

特許審査第3部繊維・積層 川端 康之)